

第32期目録委員会記録 No.11

第11回委員会

日時：2010年3月20日（土）14時～16時45分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、鴫田、平田、古川、横山、渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. 日本目録規則1987年版改訂3版第4刷修正箇所一覧（3ページ-A4、横山委員）
2. 平成22年度第96回全国図書館大会奈良大会開催案内原稿（1ページ-A4、渡邊委員）
3. 目録の作成と提供に関する調査（4ページ-A4、酒見委員、木下委員）
4. NACSIS-CATの統一書名典拠レコードについて（4ページ-A4、平田委員）
5. NCRの改訂について（個人メモ）（6ページ-A4、酒見委員）
6. NCR改訂の方向性について（検討メモ 平成22年3月20日改訂）
（6ページ-A4、原井委員長）
7. 第32期目録委員会記録 No.9（3ページ-A4、事務局）
8. 第32期目録委員会記録 No.10（案）（3ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第10回記録案（資料8）を確認した。

2. 委員の補充について

原井委員長から、東京都立図書館に対して打診中であるとの報告があった。

3. 次回増刷時の誤植訂正について

横山委員から、資料1について説明があった。付録4に関する各委員のチェック、および序説等に関する外部からの指摘事項を一覧表にしたものである。次回増刷までは時間があると見込まれるので、本一覧を随時加筆・修正していく。

[検討事項]

1. 全国図書館大会分科会について

渡邊委員から、開催案内原稿（資料2）及び今後のスケジュールの見通しについて説明があった。資料2を検討の結果、「テーマ」を「新時代の目録規則へ向けて」とすることとした。案内文については、原案通り承認された。

2. 目録に関する調査について

酒見委員から、レイアウトを整えた調査シート案（資料3）について説明があり、形式面を中心に検討した。以下の点に修正を加えて成案とする。

- ・冒頭の図書館名等の記入枠をもう少し拡大する。また、連絡先は電話番号もしくはメールアドレスとする。
- ・質問文はゴシック体、選択肢及び回答欄は明朝体に統一する。
- ・問5の後の分岐指示の条件は、「選択肢4～5の両方にのみ、またはいずれかにのみ…」とする。
- ・問7の2)の例示は、「雑誌、新聞、マイクロ、視聴覚…」とする。また、例示の末尾に「など」は付さないこととする。

続いて今後の作業の進め方について検討し、以下の通り決定した。

- ・公共・大学図書館の方若干名に事前レビューを行ってもらい、問題点をチェックする。依頼担当は東委員（公共）、木下委員（大学）とする。
- ・メール添付回答用のEXCELフォーマットファイルを作成する（担当は酒見委員）。
- ・依頼文書を作成する（担当は原井委員長及び事務局）。
- ・4月の委員会で調査シートを確定させ、5月ごろの発送をめざす。

3. NCRの改訂方針について

平田委員から、資料4に基づいてNACSIS-CATにおける統一書名典拠レコードの現状について説明があり、以下のような意見交換が行われた。

- ・日本の作品に対する海外からのアクセスを考えると、古典作品に対する統一タイトルをリスト化することの意味がある。その目的を考えると、カナヨミだけでなくローマ字形も必要ではないか。
- ・目録規則ではなく、IFLAのAnonymous Classicsにリスト化するという考え方もあろう。
- ・海外の作品も対象とし続けるかどうか検討の必要がある。公共図書館等を考えると、日本語による統一タイトルを示すことは有用ではないか。
- ・RDAでは、全ての資料に対して統一タイトル（著作の優先アクセスポイント）が想定されている。NCR改訂にあたって、統一タイトルを適用する範囲をどこまでとするか、そのうち規則にリスト化する範囲をどこまでにするか、の方針が必要である。著者の明らかな作品にも拡大するとすると、基本記入方式に対するスタンスとも関係してくる。

引き続き、国立国会図書館や国文学研究資料館の状況も含めて調査検討することとした。

酒見委員から、資料5の説明があり、以下のような意見交換が行われた。

- ・電子情報資源管理においては、グローバルなナレッジベースで書誌情報が管理され

ている。今後目録データのFRBR化を考えた場合、各図書館で著作・表現形レベル等のデータを作成するのは現実的でない。グローバルなデータとローカルなデータとが連携をとって運用される仕組みが必要ではないか。

- ・データ連携を考えると、何らかの識別子によって実体が認識されるのが効率的である。現状の目録規則における標準番号はデータ要素の一つに過ぎず、一意性という点ではむしろ、統一標目という文字列が識別子の役割を果たしている。今後NCR改訂を進めていくなかで、識別子のあり方を検討していく必要がある。

原井委員長から、前回までの議論を踏まえて改訂された「NCR改訂の方向性について」（資料6）の説明があり、以下のような意見交換が行われた。

- ・「要件」を含む「目的」と、要検討事項をまとめた「論点」の2本立てで文書をまとめている。今後の検討の中で合意が得られた事項を「論点」から「要件」に順次移して整理していきたい。
- ・「NCR改訂の目的」とされている「利用者の利便性を優位に置く目録を目指す」は、「目録規則の目指すもの」に含めるのが妥当ではないか。
- ・RDAについて、長所を個別に取り込んでいくことには合意が得られているが、構成面でどこまで近づけるかはなお検討が必要である。
- ・「構成レベルの扱い」を考えるうえで、著作としてのまとまりという観点が必要である。内容細目等に記録されるものには著作といえる単位のものとしてないものがあり、両者は区別して扱われるべきである。

今後、論点を順次検討していくこととした。次回は書誌階層と統一タイトルの問題を取り上げる。

次回以降の委員会の予定

4月17日（土）

5月22日（土）

6月26日（土）

以上